

# 幸齢から老齢になったとき

リポーター 佐藤 静子 (御成町4丁目)

## 安心して老齢を迎えるために

「幸齢」という言葉を聞いたことがないと思います。ボランティアのシボジウムでの言葉でした。高齢者が趣味や学習、サークル、ボランティア活動といきいき過ごしている状態のことを言うそうです。老齢とは、病気、障害等で自分で生活が困難になった状態と考え、たらいでしよう。百歳でも幸齢、六十歳でも老齢のこともあり、きんさん、ぎんさんも幸齢と言えるでしょう。

中央公民館で開設している老壮大学の学生さんの協力を得て、老

齢になったときについてのアンケートを採らせていただきました。その結果を踏まえ、大館の福祉の現状と今後について小玉福祉事務所長と一人暮らしの小林さんにお話を伺いました。

## アンケート調査結果

対象 老壮大学生全員(37人)

60歳代13人、70歳代18人、80歳代5人、90歳代2人、回収率70・8%

家族構成

一人暮らし 24・4%  
二人暮らし 20・0%  
家族同居 53・6%

一人暮らしのかたで六六・三%のかが「不安がある」と答えており、そのうち六六・三%のかが健康に不安をもっています。また、もし一人で生活することが困難になったら「肉親と同居したい」が二四・六%、「施設に入居したい」が四四・六%、「自宅で援助を受けたい」が二四・六%となっています。二人暮らしのかたに「もし一人になったら」と聞いても同様の回答で、「一人で暮らす」が四四・一%、「施設に入居する」が二五・四%、「肉親と同居したい」が二八・八%と家族離れが見られます。

「ボランティア活動に興味がありますか」との問いに、「ある」と答えたが七〇・四%で、このうち「ボランティアを受けたい」と答えたかたが五〇・二%、「受けたく

ない」が二一・八%となっています。受けたくない理由については、「プライバシーが侵される」、「人に迷惑をかけたくない」などがあります。

家族と住んでいても、身体が不自由になったら施設に入居したいと考えているかたが多く、中には家族はあてにならないというかたまでいます。家族のきずなの薄さを痛感しました。その反面「終末はどこで」との問いには、「自宅」と答えたかたが六八・五%、「病院・施設」が二三%と、終末は自宅での願望も多く、家族のぬくもりを求めていることがうかがわれます。

## 大館市の高齢者

### 保健福祉計画

福祉とは、困っているかたを援助することが主となっているようです。現在大館市の高齢者(六十五歳以上)は一万二千七百九十一人で、高齢化率は一八・七%、このうち一人暮らしのかたが千四百三十一人、寝たきりのかたが二百十四人、痴ほうのかたが百二十人だそうです。全国の高齢化率が二五%に達するのが二〇二〇年と言われているが、大館市では二〇〇五年に達する予想だとのこと。

市では、一人暮らしのかたや高齢者世帯などにホームヘルパーを派遣していますが、現在、ヘルパー数は四十七人で、ゴールドプラ

ン最終年(平成十年)度までには十八人に増員されるそうです。施設入所の実態は、養護老人ホーム、特別養護老人ホームなど大館市内の施設の入所定員は合計三百九十三人で、現在、満杯の状況だそうです。これらの施設への入所待ちのかたが八月現在で約百四十人ぐらいいるそうです。北部老人福祉総合エリアが完成すると約百人が収容できる予定で、入所待ちのかたはだいぶ解消できるとのことでした。

また、現在あるデイサービスセンターは三カ所ですが、「平成十年度までには七カ所にする予定で、二十四時間介護が必要なかたにも常時派遣できるよう体制を整える」とのことでした。

## 小林さんの談

「病気、障害者への対策はいろいろなされているようですが、一人暮らしの幸齢者に援助の手がないのでは、老齢になったときの不安が大きい。老人クラブで老人同士で支えあう地域ネットワーク作りをしています。まだ手がけたばかりで、行政としても考えてほしいものです。」

## まとめ

施設の充実には「ゴールドプラン」で満足できるのでしょうか。その反面で家族のつながりがどんどん失われています。皆が求めている

◀小玉所長(右)と小林さん(左)から取材している佐藤リポーター



のは、施設入所ではなく自宅での家族のぬくもりであるはず。若いとき、幸齢のときから地域との連携を取り、共に助け合うネットワーク作りをし、老齢に備えなければならぬと感じます。「遠い親戚より近くの他人」と言われるように、対人関係を円滑に保つことが重要ではないでしょうか。「人に迷惑をかけたくない、世話になりたくない」と言うかたがいますが、一人で生きていくのは難しいものです。でしたら大いに世話になり、そして、他人にお世話をできるときにはお世話をしましょう。市でも町内でも近所でも、自分から働きかけなければ、援助してはくれません。

隣のかた、民生委員、ボランティアのかたなどへ気楽に相談してみたら、永く幸齢が保てるのではないのでしょうか。